

## 隠岐諸島・中ノ島で初記録のヒメナミギセル

深谷 治\*・福田 貴之\*

### A new record of *Stereophaedusa japonica ultima* (Pilsbry, 1909) (Pulmonata : Clausiliidae) from Nakanoshima Island, Oki Island

Hajime Fukaya, Takayuki Fukuda

**要旨**：ヒメナミギセルはキセルガイ科の陸産貝類で、隠岐諸島の島後でのみ確認されている固有種である。このたびこれまで記録のなかった隠岐諸島島前の中ノ島で採取した。

**Abstract** : This is a report on the first recorded collection of *Stereophaedusa japonica ultima* (hime-nami-giseru) in Nakanoshima Island, Oki Islands.

隠岐諸島中ノ島で初記録となるヒメナミギセル *Stereophaedusa japonica ultima* (Pilsbry, 1909) を採取したので報告する。

#### 採取記録

隠岐諸島中ノ島豊田地区

2016年5月27日 2ex. 採取

2016年9月18日 22ex. 観察, 採取

2016年12月17日 30ex. 観察, 採取

本種は腹足綱 Gastropoda, 汎有肺目 Panpulmonata, キセルガイ科 Clausiliidae に所属する陸産貝類で、隠岐諸島の島後（タイプ産地：中村）だけで確認されている固有種である（東, 1995; 湊, 1971, 1994）。環境省（湊, 2014）と島根県（戸田, 2014）では絶滅危惧Ⅱ類（VU）に選定されており、殻高27-29mm, 殻径5.3-5.5mm, 紡錘形状で褐色から紫褐色を呈するが、縫合の下は白く、光沢が強い（戸田, 2014）。今回の記録は、島後のみの固有種として報告されているヒメナミギセルが中ノ島にも分布していることの確認として大変重要なものである。

今回最初に確認したのは、当団体職員が2016年5月に中ノ島豊田地区において見慣れないキセルガイ科の成貝を偶然発見した2個体である。事務所に持ち帰

り同定を試みたが、中ノ島において記録されている種の中に該当はなかった。島後の固有種であるヒメナミギセルに類似していると思われたが、殻高及び殻径、螺層において、報告されている島後産（島根県, 2014）と較べ著しく小形であることから、最終的に陸産貝類の研究者である湊 宏氏に同定をお願いすることとなった。同定の結果、ヒメナミギセルであるとの結論をいただいた。しかし、2個体のみの採取では島後からの偶発的な移入個体でもあるということも推察されることから、当団体で同年9月と12月に、同地



図1 ヒメナミギセル 左：中ノ島産, 右：島後産

\* 特定非営利活動法人 隠岐しぜんむら 〒684-0403 島根県隠岐郡海士町大字海士 5328-6  
NPO Oki-shizenmura, 5328-6, Ama, Ama-cho, Oki, Shimane, 684-0403, Japan

表1 殻高・殻径の比較

| 産地     | 殻高mm | 殻径mm | 螺層   | 確認者       |
|--------|------|------|------|-----------|
| 島後(中村) | 29.3 | 5.5  | 13.5 | タイプ標本     |
| 島後     | 29.0 | 5.5  | 13.5 | 東 (1995)  |
| 島後     | 27.0 | 5.1  | 13   | 戸田 (2014) |
| 中ノ島    | 19.5 | 4.8  | 11   | 深谷 (2016) |
| 中ノ島    | 21.3 | 4.9  | 11   | 深谷 (2016) |
| 中ノ島    | 19.9 | 4.9  | 11   | 深谷 (2016) |
| 中ノ島    | 21.0 | 4.8  | 10.5 | 深谷 (2016) |
| 中ノ島    | 21.5 | 5.0  | 10.5 | 深谷 (2016) |
| 中ノ島    | 19.9 | 4.8  | 10.5 | 深谷 (2016) |

区周辺を再調査し、さらに50個体以上の成貝を確認した。そのいずれも5月に採取した個体と極めて類似しており、そのうち10個体を採取して再び湊氏に同定をお願いした結果、いずれもヒメナミギセルとのことであった。島後産個体に比べ中ノ島の個体群は、殻高、殻径ともに矮小化(表1; 図1)しており、螺層も少ないことから、この島の個体群は、島後とは隔離された状態で矮小化した個体群である可能性が高いと推察された。これは、陸産貝類が隔離された地域の中では、形態に差異が生じていく事例としても貴重なも

のであると考えられる。

最後に本種についての同定、原稿執筆にあたってご指導いただいた日本貝類学会評議員である湊 宏氏及び同定にご協力いただいた増野和幸氏、戸田顕史氏に心からお礼申し上げます。

## 引用文献

- 東 正雄(1995)ヒメナミギセル. In: 原色日本陸産貝類図鑑(増補改訂版), pp. 80-81, pl. 20, fig. 242, 保育社, 東京.
- 戸田顕史 (2014) ヒメナミギセル. In: 改訂 しまねレッドデータブック2014 動物編, 島根県の絶滅の恐れがある野生動物, p.246, 口絵28, 島根県環境生活部自然環境課, 松江.
- 湊 宏 (1971) 隠岐諸島のキセルガイ類. ちりぼたん, 6 (7): 165-167.
- 湊 宏 (1994) 日本産キセルガイ科貝類の分類と分布に関する研究. Venus Supplement 2: 1-212 6 tables 74 pls. 日本貝類学会, 東京.
- 湊 宏 (2014) ヒメナミギセル. In: レッドデータブック 2014 — 日本の絶滅のおそれのある野生生物 6 貝類. p. 338. 株式会社 ぎょうせい, 東京.